継続的な技術支援でイノシシ対策を推進

■　高松市香川町天神集落　■

（東讃農業改良普及センター　矢木聖敏）

●対象の概要

天神集落は、高松市香川町東谷地区の最奥部に位置する耕地と里山が入り組んだ複雑な地形の中山間地域である。農家戸数は天神自治会の21戸と他集落からの入り作農家５戸で、農事組合法人アグリ天神として、麦、水稲、野菜などの栽培に取組んでいる。

天神集落にイノシシが出没し初めたのは平成10年代になってからで、水稲やサツマイモなどに被害が見られるようになった。このため農家個々にノリ網や電気柵などで対策を行ったが、個別の対策では効果は十分ではなく、被害は拡大し、サツマイモ等畑作物の栽培が減少するなど、集落の営農意欲の減退が懸念される状況にあった。

●課題を取り上げた理由

平成20年に、高松市農林水産課から国の鳥獣被害防止総合対策で集落全体を囲う侵入防止柵設置の提案があり、集落で協議を重ね、集落を守っていくには“今対策をしておかないとダメだ”とのみんなの思いから、21年度の事業に取組むことになった。事業に取組むにあたり、普及センターではイノシシ対策の先進地への視察やワイヤーメッシュ柵の設置など技術的な支援を行った。

結果、集落総出で総延長4.5kmのワイヤーメッシュ柵を設置することができ、区間毎に管理責任者を指定し、維持管理に努めることにした。柵の設置によりイノシシ被害の問題は一旦解決したが、数年経過し、柵の管理不足から集落内にイノシシが侵入し始め、柵内の里山に棲みつき再び農作物に被害を及ぼすようになった。集落では、柵の管理を管理者に呼びかけるとともに柵内に侵入したイノシシの捕獲を進めたが、捕り尽すことはできず現在に至っている。

このような経過を踏まえ、普及センターでは集落を囲う侵入防止柵を効果的な対策にするため、平成24年度から鳥獣害対策のモデル集落として位置づけ支援を開始した。

●普及活動の経過

１　調査の実施

平成24年度から約２年間、集落内に侵入しているイノシシの実態を把握するため、センサーカメラを集落内の各所に設置した。あわせて、侵入防止柵の設置状況を確認し、イノシシによる破損状況や柵の設置上の問題点を明らかにした。

平成26年度からは、柵の外にセンサーカメラを置き、集落に接近するイノシシ等の行動調査を行った。これらの調査結果は、自治会員を通じ、イノシシ捕獲に協力している狩猟者にも情報提供し、捕獲につなげてきた。

２　学習会の開催

イノシシやその対策に関する知識の向上を図るため、自治会常会の機会を活用し学習会を継続的に開催した。学習会では、イノシシの実態調査結果の報告や天神自治会の侵入防止柵の設置上の問題点を整理し、改善を提案した。

また、イノシシの侵入口として可能性が高いワイヤーメッシュ下の水路などの対策を紹介した。

学習会の様子

３　柵の設置ルートの見直し支援

平成21年度に柵を設置する際に集落で検討した結果、集落を最短で囲む里山を含めたルートで設置することとなった。しかし、一部が維持管理が行いにくい里山内に設置されていること、イノシシが侵入した場合、柵内の里山にイノシシが棲みつきやすいこと、また、農業者の高齢化に対応

したルートでの設置がより好ましいことから、可能な範囲で改善するよう助言した。

4　イノシシから守れる栽培技術支援

侵入防止柵の維持管理の徹底や捕獲だけでは侵入したイノシシに対する速やかな解決とはならないことから、竹マルチ栽培等イノシシから守れる栽培技術の提案と展示ほの設置を行った。

●普及活動の成果

1　侵入防止柵に関する意識の高まり

学習会などでの情報提供により、個々に侵入防止柵の見回りを増やすなど関心の高まりがみられるようになった。平成25年１月には、学習会で対策を紹介していた柵下の水路にワイヤーメッシュの敷込み対策が有志により行われた。対策後の普及センターによるセンサーカメラを使った調査では、イノシシの通過をかなり制限できていることが確認できた。また、平成30年度にも別の場所からの侵入が疑われたため、同様の対策が行われた。

柵下水路へのワイヤーメッシュの敷き込み対策

柵の維持管理では、平成26年度には柵周りの草刈を年に２回行うよう申し合わせができた。さらに、平成28年度からは集落有志による一斉見回りを、年１回実施するようになった。

侵入防止柵の一斉見回りの様子

2　柵の設置ルートの見直し

平成26年度後半には、これまでの点検結果からイノシシの侵入が多い部分の柵の設置ルートの変更に着手し、平成27、28年にも順次改善が行われ、以前と比べイノシシによる柵の破損は減少した。また、継続的な侵入防止柵の改善により、柵の外側に現れるイノシシは減少傾向にある。

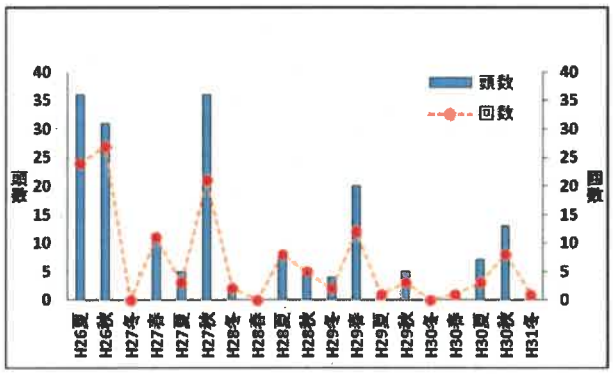

図１　柵の外側に現れたイノシシ

3　捕獲活動の強化

侵入防止柵の改善とともに、狩猟者の協力による継続的な捕獲により、集落内に生息するイノシシの数は、農作物被害の状況からみて減少傾向にあると考えられる。

侵入したイノシシの捕獲

●今後の普及活動の課題

普及センターの働きかけにより侵入防止柵の維持管理や継続的な捕獲が行われ、集落に侵入したイノシシによる農作物被害は減少傾向にあるが、未だ全面解決には至っていない。イノシシ被害を防止するとともに、集落での営農活動が安心して行えるよう、今後も営農支援を含めた継続的な技術支援が必要である。